

ひとを育てる活動

CMIP 奨学生 48 名分の使途報告が届きました

奨学生支援の皆様にはすでにお届けのように、新学期を控えた5月末、2018年度奨学金の使途報告が届きました。

昨年(10月号(95号))で、「授業料値上げで、食費節減！」とノビシエート寮カレッジ生の苦しいやりくりをお伝えしましたが、今回届いた2018年度報告でも食費のやりくりの厳しさが伺えます。敷地内の野菜作りなど寮生の自助努力を評価して、2019年度のカレッジ生の月額奨学金は、前年より200ㄱ増額して2,500ㄱとしました。

一方、授業料無料の公立校に自宅や親族宅から通学するハイスクール生の場合は、奨学金の8割は教材・文具・制服代となっています。小学生も主たる経費は教材と制服代です。年5,400ㄱと1,200ㄱの奨学金は少なくとも学校経費をカバーしており、貧困世帯の学業継続を支えています。

皆様の長期に渡るご支援に改めて感謝申し上げます。

奨学生モニター担当に、元奨学生が採用されました

10年近く勤めたロウエルさんが辞めたあと、空席だったモニター担当が決まりました。元ハイスクール奨学生のゲイマリーです。カレッジ奨学生枠に入れず、自力で教育学部に進んだものの経済的に続かず2年で中退。どうしても教師になりたいという決意を知ったCMIPマーク神父の計らいで、奨学生モニタースタッフとして働き、その給与でカレッジの3年生に復学という道が開かれました。

ノビシエート寮からカレッジに通いながら、20余りの公立校に在籍の小学生、ハイスクール生をモニターするのは大変ですが、夢実現のために頑張りたいと思います。



SCMSI カレッジの学生数は、3学科 892 名になりました

前号で教室増設費協力をお願いした SCMSI から、新設の「ツーリズム/観光科」の入学手続き終了の報告がありました。



床下教室建設前の高床式校舎
(会員相田さん4月撮影)

従来からある地域開発科、初等教育科と合わせて3学科で892名が在籍する高等教育機関となりました。

レイクセブ町にはほかに専門学校が一つあります。専門知識や技能を身に付けたい、国家資格を取って家族や地域のために働きたいチボリの子どもたちの選択肢が一層広がりました。

国家試験に挑戦の卒業生 — 現況報告より —

<看護師国家試験に合格しました！>

前97号で「無事卒業！」と報告のJOFPA基金奨学生ゴルディ・マリから、「看護師国家試験(NLE)合格！」の知らせが届きました。2014年度に発足した本奨学金による国家資格を持つ看護師第1号です。6月25日付でジェネラルサントス市内の私立病院勤務が決まったことや、休日はレイクセブ町に戻り、チボリの住民の健康推進のためにも役立ちたいと、これまでの支援への感謝とともに決意が記されていました。

<インターン期間終了、医師国家試験準備中です>

同じく97号で「インターン中」とお伝えしたダバオ医大卒のアンからは、医師国家試験(PLE)向け予備校経費の支援要請が届きました。医大奨学金で大変お世話になった上でのお願いで心苦しいが、インターンとして得た給与は、この5月に自分の病院で癌の手術をした母親の治療費に当てたので、残り少ないということでした。

国家試験はレイクセブ町チボリ民族初の医師誕生に向けての最後の関門です。他の卒業生同様にアンについても1回目の挑戦に限り、また、マニラの予備校の学費のみを支援することにしました。



インターンとして勤務のジェネラルサントス市ドクターズ・ホスピタルで
(6月、MRI検査室のアン)

<2017年度卒の2名が教師国家試験に挑戦！>

教育学部専攻の卒業生の多くが挑戦する教師国家試験(LET)について、今年はCMIP ナブル校勤務のライアン、ローレーナの2名から、予備校授業料や受験料支援要請がありました。

LETに合格し、地元の公立校教師になれば、ピラーンやチボリの子どもたちの良い目標になります。安定した収入を得て家族・親族を支えられます。

私たちは卒業生の挑戦に対して、1回目に限り、予備校や受験費を支援することにしてきました。

初回突破はかなりの難関で、2年前卒業のジェラルディンは1回目で合格しましたが、結婚して子どもがいる同期のメリーローズは2回目に挑戦中ということです。

今回の2人の健闘祈っています。

人材育成「JOFPA 基金奨学金」現況報告

チボリ国際里親の会(JOFPA)の活動を引き継ぐにあたり、残余資産は看護師育成のためにというJOFPAの意向を受けて、2014年度に発足した「JOFPA基金奨学金」。これまでに支援した学生は4名で、うち2名は家庭の事情他で中退し、PIHS推薦のモナリサも家族や学力の問題で看護師コースから2年制の助産師コースに転科しました。一方、上段で報告のように、SCMSIを通じて支援のゴルディ・マリは無事卒業し、国家試験も初回でパスしました。なお、2019年度末基金推定残高27万円は新規看護師育成には足りません。今後理事会の審議を経て、ニーズの多い各種国家試験支援に充当できたらと思っています。(事務局)